

本県はナマズが多い？

## 有感地震回数は全国一

みなさんは鹿嶋市の鹿島神宮にある要石（かなめいし）という石をご存じですか。この石には地震を起こすナマズを押さえつけているという言い伝えがありますが、この辺りは昔から地震が多かったということなのかもしれませんね。そこで今回は、本県の地震のことについてお話ししてみたいと思います。

「茨城県は比較的地震が多い」と感じている方は多いのではないのでしょうか。気象庁の観測データから各都道府県庁所在地で1986年から1999年までの14年間に観測された有感地震の回数を見ると、本県（水戸市）は915回で第1位になっています。全国平均が182回ですからこれは約5倍に当たり、その多さに驚きます。このように地震の回数が多い理由はまだよく分かっていないようですが、鹿島灘周辺の下に沈み込んだ太平洋プレートの活動によって起きているのではないかとされています。

ところで、水戸市で観測した有感地震の回数を震度別に見てみると、意外なことに気づきます。

年によって全体の観測回数にばらつきがありますが、そのほとんどが震度2以下という共通点があります。また、過去数十年間の記録を地震の規模を表すマグニチュード（M）で見ると、M7を超える地震はありません。こうしてみると、本県は地震の回数が多い割には大きなものが少なく、比較的安全な地域とすることができるでしょう。

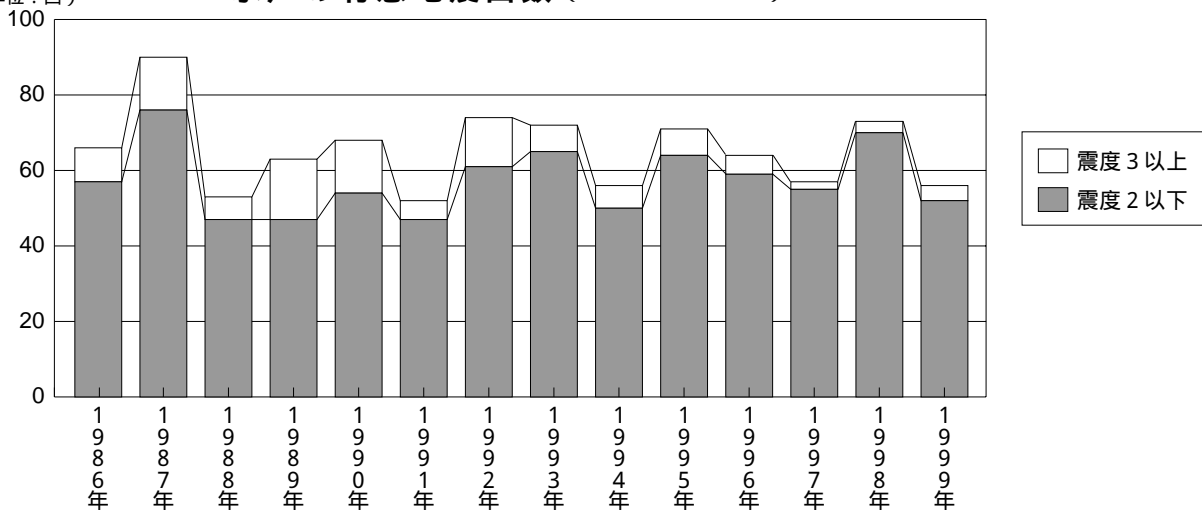
しかし、本県でもM5～6クラスのものが数年に1回の割合で起きています。「茨城県は安全だから」と安心せずに、各家庭でも万が一に備えておくことが大切です。例えば、室内のぐらつきそうなものを固定したり、避難生活に備えて食糧、飲料水、燃料、照明、ラジオ等を用意したりしておきましょう。また、日頃から緊急の際にどうしたら良いかを家族で話し合っておくのも良いでしょう。

ともあれ、ナマズが大暴れしないことを祈りたいものですね。

（県統計課）

平成12年11月11日掲載

（単位：回） 水戸の有感地震回数（1986～1999）



国立天文台「理科年表」、日本気象協会「気象年鑑」より

「ふるさとおもしろ統計学」は第2、第4土曜日、茨城新聞に掲載されています。

年末ジャンボ宝くじ1等

## 1000万枚に当たり2.8本

庶民の夢 - 宝くじ。マニアの方は別として、皆さんも一度ぐらいいは一攫千金を夢見て宝くじを手にしたことがあるのではないのでしょうか。間近にせまる年末ジャンボ宝くじの発売にちなんで、今回は宝くじについてご紹介します。

ところで、宝くじはいつから始まったかご存じですか？宝くじの歴史は古く、約370年前の江戸時代初期までさかのぼります。摂津箕面（現在の大阪）の瀧安寺で、正月の元旦から7日までに参詣した善男善女が、自分の名前を書いた木札を唐びつの中に入れ、7日の日に寺僧がキリで3回突き、当選者を選び出し、福運のお守りを授けたのが起源とされています。

戦後では、終戦の2ヵ月後にはすでに、1枚10円、1等賞金10万円の「政府第1回宝籤」が発売されています。映画館の入場料が1円の時代、宝くじ自体もかなり高価なものだったのですね。

その後、昭和54年、つくば市での科学万博開催が決まった年にジャンボ宝くじが発売されています。

茨城県内の年末ジャンボ宝くじ発売枚数は、平成7年には約1,050万枚でしたが、11年には約1,134万枚にもなっています。この発売枚数は、赤ちゃんからお年寄りまで含めて県民1人当たり3.78枚（1,134円）も購入したことになります。

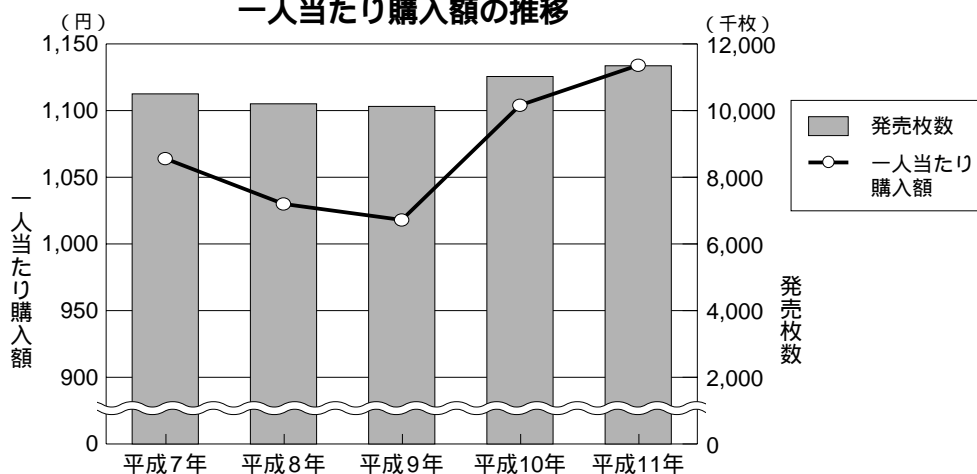
さて、宝くじの“当たりはずれ”は誰もが気になるところですが、過去5年間の年末ジャンボ宝くじの1等当選状況をみると、全当選本数1,203本中、東京都は245本、茨城県は15本で、20番目になります。これを発売枚数1000万枚当たりの1等当選本数でみると、茨城県は2.8本（発売枚数5,300万枚）、東京都は3.4本となっています。この差を皆さんはどう感じますか？

ともあれ「夢は心のオアシス」。20世紀最後のこの時に気軽に“運だめし”を楽しむ方も多いのではないのでしょうか。あなたの手にした1枚の宝くじがあなたの21世紀の夢をいっぱい描いてくれればいいですね。

（県統計課）

平成12年11月25日掲載

茨城県年末ジャンボ宝くじ発売枚数と一人当たり購入額の推移



県財政課資料を基に算出した。

「ふるさとおもしろ統計学」は第2、第4土曜日、茨城新聞に掲載されています。

